

建築主：社会福祉法人 昭和村

設計：株式会社榎本建築設計事務所

施工：西松建設株式会社東関東支店

所在地：市原市万田野732-6

一人ひとりの暮らしを支えながら、地域福祉の核となる施設

特別養護老人ホーム市原園・ 軽費老人ホーム溪泉荘



エントランス面夜景

この施設は、養老溪谷に位置していた老朽化した既存の施設の建替え事業として、緑重なる山間部の新しく切り拓かれた土地に誕生した高齢者施設である。

広大な敷地に伸びやかに計画された建物は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨造2階建て、床面積7,124.53㎡。特別養護老人ホーム60人（短期利用を含む）、軽費老人ホーム100人に加えてデイサービスセンター、在宅介護支援センターと、複数の機能を持つ大規模施設である。

しかし、正面玄関を一步入ると、それぞれの施設がわかりやすくゾーニングされ、居住部分は入居者主体の適度なスケールの空間が創り出されていて心地よい。各ユニットは（特養、軽費共）ミニキッチンを設置したりリビング（談話室）を中心に、プライベート空間としての個室を確保した上で、多様な生活に対応するための小さな共有スペースが巧みに配されて、小人数の馴染みの関係の中で、お年寄りが安心して暮らして欲しいという思いが感じられる。建物内部に設けられた中

庭は、採光・通風を確保する役割だけでなく、室内にとどまりがちな入居者の暮らしを外部に誘い出す仕掛けとなっている。

長い経験から培われた事業主の施設運営の確かな理念と、全室個室、ユニットケアに対応した建築が融合して、開所からまだ日が浅いのに、落ち着いた暮らしぶりが感じられる施設である。「環境がもつ介護の力の大きさに驚いている」というスタッフの言葉が強く心に残った。

山間部に位置しながら、広い敷地と建物を活用して、地域との積極的な交流が図られていて、周辺の植栽が成長する頃には、地域から信頼される「福祉の核」となることを予感させる施設である（夏目幸子）。



地層面を意識した全景



施設の中心にある食堂（軽費老人ホーム）

（撮影／三輪晃久写真研究所）